



題字／萩市文化協会 齊藤 武男

第20号
平成30年（2018）3月発行
萩市文化協会
会長／有富 美子
編集
会報編集委員会
委員長／大場 洋

萩・明治維新150年オープニングイベント（H30.1.20）



▲藤道市長の開会宣言

▲アトラクションの大板山たたら太鼓

萩市文化協会総会
6月3日午後3時から
講演 一坂 太郎氏

《事務局お知らせ》
平成30年度萩市文化協会総会を6月3日（日）に、開催します。会員の皆様の御参加をよろしくお願いいたします。

齊藤武男さんを偲んで

会長 有富 美子

去る二月二十一日早朝、齊藤武男前会長の訃報を聞きました。体調を崩して療養中であることを耳にしたのがつい最近だったので本当に驚きました。

齊藤さんとの出会いは、平成二年に萩で開催されたベートーベン作曲・交響曲第九番、俗に言う「第九」演奏会でした。熱心に取り組まれ「フロイデ シェーネラー」といつも楽しそうに歌われていた表情が目に浮かびます。練習の後、夜の街に皆で繰り出し、時には芸術論争で盛り上がりました。よくデュエットもしました。

ハーモニイは齊藤さんが担当、よく響くバリトンで音感も素晴らしかった事を思い出します。

その後、いろいろな文化活動をご一緒したこと、とても嬉しく思っています。自らも創作活動をされていましたが、平成十年には、東京国際ガラス学院の学院長にも就任され、人脈も多彩で、東京と萩のパイプ役を果たされていました。特に、萩焼作家との親交が深く親身になって応援されていたのが印象的です。「萩焼が地場産業として今後も成立していくためには、より芸術性を高め、グローバルな発信が重要だ」とよく言っておられました。そして、萩市文化協会を創立され、初代会長として九年、会を軌道に乗せられ、バトンタッチされました。文化を愛し、ジャンルを超えたあらゆる芸術活動を応援しながら、芸術文化向上の指針を示し、精神的な支えをいただいた齊藤さんを誇りに思います。心よりご冥福をお祈りします。合掌

水墨画家 森川翠水(すいすい)氏が水墨画を寄贈

萩市出身（旧田万川町）の水墨画家 森川翠水氏（72歳、東京都八王子市在住）が、昨年8月に萩市で初開催した個展「ふるさと萩」の展示作品70点のうち、約半数にあたる32点（水墨画31点、書1点）を萩市に寄贈されました。

寄贈された水墨画等は、市内の公共施設に展示しております。

◇展示施設

萩市役所（1）、萩市民館（1）、田万川総合事務所（1）、江崎公民館（1）、小川公民館（3）、小川小学校（1）、田万川中学校（1）、萩・明倫学舎（16）、文化財施設（7）（山中家、山村家、久保田家、木戸家、湯川家、田中別邸）

◇森川翠水氏プロフィール

本名／森川 安明（もりかわ やすあき）
1945年（昭和20年）旧田万川町上小川生まれ
1963年（昭和38年）萩高等学校卒業（15期）
書家・水墨画の内山雨海氏に師事。翠水舎主催。
銀座鳩居堂を中心に個展19回。モナコ・日本芸術祭カミーユ賞、パリ・モンパルナス美術館館長賞などを受賞。



藍場川（展示：湯川家）

平成30年度 加盟団体主要行事一覧表（平成30年4月～平成30年9月）

月	日	時間	行事名	場所	団体名
4	19(木)～22(日)	10:00～17:00 (初日13:00～) (最終日16:00)	第41回 萩創美会展	萩市民館小ホール	萩創美会
5	1(火)～5(土)	9:00～17:00	萩焼コラボ華展	萩市民体育館	池坊萩支部
	3(木)～4(金)	10:00～15:00	萩大茶会華展	松陰神社立志殿	池坊萩支部
	6(日)	13:30～16:00	舞踊の会	萩市民館大ホール	茜屋出雲流松喬会
	11(金)	18:30～20:30	ウィーン少年合唱団萩公演	萩市民館大ホール	萩音楽協会
	19(土)	15:00～16:30	杵屋邦寿一人ライブ	山口萩ビールタルタル21	萩三音会
	19(土)	18:30～20:00	フラメンコライブ	田万川コミュニティセンター	ロス・アミーゴス田万川
	20(日)	13:00～14:30	杵屋邦寿一人ライブ	長門市大寧寺本堂	萩三音会
6	26(土)～30(水)	10:00～17:00 (最終日16:00)	萩美術協会展	萩市民館小ホール	萩美術協会
	27(日)	9:50～16:20	第22回北浦歌謡フェスティバル	萩市民館大ホール	NPO法人北浦音楽芸能文化協会
6	23(土)	12:30～12:55	有備館剣道大会	有備館	御船謡保存会
7	7(土)	17:30～18:00	明るい社会づくり運動全国大会in萩	萩本陣	御船謡保存会
	14(土)～16(月)	9:00～17:00	第49回啓心書道展	萩市民館小ホール	啓心書道会
	15(日)	14:00～16:00	合唱講習会	萩西中学校	萩音楽協会
	28(土)～29(日)	9:00～15:00	新萩画学校	萩市総合福祉センター	萩美術協会
8	10(金)～13(月)	9:00～17:00	シャッタークラブだいたい写真展	萩市民館第1会議室	シャッタークラブだいたい
	25(土)	17:30～18:00	神社保育園関西ブロック大会	萩本陣	御船謡保存会
9	22(土)	10:00～13:00	茶供養祭	大照院	茶道裏千家淡交会萩支部

※各団体から報告のあったもののみを掲載。

原稿募集！

会報「萩の友」は、会員の交流の場です。皆さんからの情報を募集しています。どしどしお寄せください。

編集後記

▶齊藤武男前会長の急逝、誠に残念でなりません。心からご冥福をお祈りいたします。合掌▶今月号は、市長への特別インタビュー特集。文化に対するお考え、市の文化行政の方針等についてお尋ねしました。文化活動やその発表の場としての建物のこと、支援の立ち位置のこと等具体的にお話を聞くことが出来ました▶維新150年記念の行事がぼつぼつ開催されています。文化活動の活性化にも繋がるものと期待しています▶春爛漫、一層のご活躍をお祈りします。

（会報編集委員長 大場 洋）

萩市の文化について 藤道健二市長に聞く 『一体感で文化交流を』

文化の薫り高い町

■お忙しいところお時間をいただきありがとうございます。

始めに、萩市の文化行政にどのような取り組みがあるのか所存をお伺い致したいと思ひます。まず、萩市の文化の特徴について、お聞かせください。



萩では、何かというと、幕末維新の歴史にばかり焦点が当たりがちです。しかし、毛利のお殿様の時代から、多面的に素晴らしい文化を育て、遺してきており、文化の薫りの高い町だと思っております。ただ、なか

なかそういう素晴らしい文化にスポーツが当たらず、全国の方々に正しくご理解していただけていないのではないかと気がしております。

■萩には、藩政時代からの伝統行事が数多く残っています。が、少子高齢化の影響で、近年、存続が危ぶまれる状況にあります。

確かに、少子高齢化が進むことで、文化や技術において、衰退するものが出てきているのは地方の特徴的な傾向になっていきますね。

例えば集落単位での伝統行事等を、集落のみで維持することはなかなか難しい時代になっているようです。

そこで、コミュニティを通じた地域づくりの盛り上げ、活性化が必要になり、色々なコミュニティを引き入れていくということが、これから先求められるかと思ひます。

理想的には、若い人、萩で育った方達に萩に残っていただいて、萩の伝統的な文化を引き継いでもらうことです。

また、他所の人が萩に住みたいと

いうことで来てくれるようなことも大歓迎です。文化に限らず、あらゆる面で、新しい人に入ってきてもらいたいと思ひます。新しい血が入って来ることによって、より一層、発展に繋がるのではないかと思ひます。

少子化の良い面も

■文化面でも、子ども達に将来を担ってもらうことが大切だと思ひます。

子ども達は様々な可能性を持っていますから、色々なものにトライしてもらいたいと思ひます。

子ども達の可能性を伸ばすためには、まず基本型をしっかり伝承して、後は子ども達の創造性を自由に伸ばしていくと良いと思ひます。子ども達が好きなものに打ち込んでいくとき、親をはじめ、地域、団体、行政がバックアップしてあげることが肝要だと思ひます。

自分が好きな道を極めていくことが大切です。それが本業になるのか、趣味の世界になるのか、それは別に問題ではないと思ひます。

とにかく、子ども達に、自分の可能性を引き出すために、何にでもトライしてもらいたいと思ひます。

私は、萩の子ども達は、基礎的な学力は高いと思ひます。それは少子化が進んだことによって、マンツーマンに近い少人数教育が実現できているからです。萩が少子化で、

文化やスポーツの支援に行政として、力を注いでいかなければならなと思っていますが、どういったサポートがあるのか、どこまでサポートするのか、ということを考えていかなければならなと思っています。文化活動全般をバックアップするということになるかもしれませんが。

黒子に徹する立ち位置で

■市の行政としてはどのような形で支援されますか。

基本的には活動を行なう主体は、それぞれ地域の人であって、行政が表に出てはいけなと思っています。

文化というのは、人の営みですから、それを裏から黒子でサポートしていくというくらいの立ち位置が良いのではないかと思ひます。

萩は財政的には厳しい状況ですが、あまり経済面で期待されては困ることもありますが…。

先ほどの設備の問題に関連しますが文化活動を行なう建物について、さらに言及しますと、近々新総合福祉センターや福栄地区のコミュニティセンターの建て替えをします。また、大井地区では、この四月から新しい公民館が供用を開始します。このように各地域の文化活動の拠点などを整備していきます。それらを通じて地域の文化の振興に目配りをしていきたいと考えています。そして、一体としての地域間の文化交流を進め

大人と子どもが渾然一体となって教育をやっていくことが良いのではないかと思ひます。子ども達にとつて貴重な体験の機会が、ぜひ増やしていきたいと思ひます。

■私達も、地元の老人会で小学校に、年寄りの体験を伝承する支援を行っています。

ところで、本物を連れて来る場合ですが、かねてから、萩では、それを受け入れる施設、設備が不十分だと言われているようですが…。

萩で一番大きな市民館は、昭和四十三年、明治維新百年の時の建設で、五十年前前です。市民館の欠点といったものは聞いております。

しかし、これを今建て替えるというのは萩の財政事情では困難です。現在の市民館は、できるだけ長く使うを得ないので、問題点を一つ一つ解決していくということになると思ひます。

ただし、根本的に構造的な欠陥まで改造するとなると、大きな投資になってきますので、その償却期限が到来するまでは、建て替えの時期が遅くなるということもあります。どちらがよいのか、慎重に検討していく必要があります。

楽しく暮らせるように

■若い人の定着ということをおっしゃいましたが、これを文化面で行政的にどのように援助されるお考えで

教育面のハンディキャップだけを負っているわけではないということ、良い面もあるのだということをお伝えしておきたいと思ひます。ただし、中学校では必ずしもそうではないため、基礎力はあるけれども応用力をどうつけていくのが、今後の課題になっていくと思ひます。

■萩の子ども達は本物の文化や芸術に触れる機会が少ないように思ひます。もつと、本物に触れさせたり、体験させたりしてあげる機会があれば良いと思ひますが、いかがでしょうか。

文化や芸術に限らず、本物を知っているか、どうかで偽物との対比が出来ますからね。そういう意味では、萩は残念ながら本物を知る機会が少ないですね。出来るだけ子ども達に優れた人物や芸術等の本物に触れていく機会をつくってあげたいと思ひます。

体験については、今、コミュニティスクールという、学校と地域が関わり合う態勢が萩全域で出来るようになりました。カリキュラムとしては難しいかもしれませんが、どんなジャンルでも良いと思ひます。文化や、地域と子ども達が関わり合う時間をつくり、出来るだけ多くの体験をして欲しいと思ひます。学校を離れては限界がありますが、学校における文化活動などを増やしたら良いと思ひます。

ていかなければならなと思っています。市内全域の一体的な意識をつくりあげることが先決であろうと考えています。

■文化行政についての基本的なお考えを、ご丁寧にお聞かせいただきました。

もつとお聞きしたいことがたくさんありますが、時間の関係もあり、次回とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。(質問と市長の談話は要約させていただきます。)

聞き手

編集委員長 大場 洋
編集委員 石橋 慶子
編集委員 山根 清人

